

2022年1月5日(水)

老球の細道649号

信念励ましておめでとうございます

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎日がお正月、毎日が誕生日の私にとって新年を迎えたから特別な心境にはなれないが、生活をリセットする意味では大きな意義のある日になる。ありきたりだが、1年の過ぎるのはいかに早いことか。去年は毎朝目覚めた時に今日も無事生きることができると喜び、充実した一日を過ごすことができた。今年もそんな調子で生きていきたい。そのためにも目標やスローガンが必要になってくる。それらがあることによって力が集約できる。

今年のスローガンのキーワードは、**寅年**にちなんで「**タイガーマスク**」「**フーテンの寅さん**」、そして「**ゴー・ツー・トライ**」である。ただ単に語呂合わせで並べるだけでなく、そのキーワードから想像される人生の原理、原則を常に忘れないようにする。毎年そうであるが、スローガンを設定して3月ころまでは覚えているのだが、12月頃になると「ああ、こんなスローガンをかかっていたんだ」と愕然とする。

「タイガーマスク」とは梶原一騎原作、辻なおと作画によるプロレス漫画作品の主人公である。1969年に発表され、私の青春時代のヒーローであった。虎の穴での殺人トレーニングを克服した伊達直人が虎のマスクをして悪役レスラーをやっつけ、そのファイトマネーを自分が育った孤児院へ寄付する物語である。まさに強気をくじき弱気を助ける象徴であった。アベノマスクが廃棄されそうなので、タイガーマスクを心に着けて少しでも他人のために何かできるような存在になりたいものである。それが年老いた者の責任か。

「フーテンの寅さん」とは1969年から1995年までに48作続いた山田洋次監督の映画『男はつらいよ』の主人公「車寅次郎」である。家庭に居場所がなく香具師としてあちこちを放浪して迷惑をかけるのだが、最後はその不器用な優しさに皆が魅かれていく。苦勞のない人生はつまらないし、愛されない。人は苦勞することで優しくなれるし、魅力的になれることを教えてくれる。楽な方向に流される私の弱さへのブレーキとなってほしい。

「ゴー・ツー・トライ」の老家本元は「ゴー・ツー・トラベル」であるが、コロナ禍復活兆の現状を見ると「トラベル」は「トラブル」になりかねないので、「トライ」で虎の勢いを借りてまだやりきれないことにトライ、チャレンジしたい。まさに「虎の威を借りる」か。

人間の一生(健康寿命72歳)を一日に換算すると(年齢を3で割る)、孫の6歳は朝2時、18歳は朝6時、息子の39歳は午後1時、私の68歳は夜22時、そして72歳は夜24時になる。

「花は一時 人一盛り」。花が美しく咲くのが一時であるように、人が盛んな時のごくわずかな期間だけであると先人は言う。また「惜しみても 帰らぬものは 日と月と 川の流れと 人の命と」と先人は詠う。

今年は去年の東京オリ、パラのような特別なイベントはないが、道元が言うように「時は命なり」。一日、一日を特別な日として自分らしく生きて行きたいものである。